

Clinical benefits of single-incision laparoscopic surgery for postoperative delirium in elderly colon cancer patients.

Nishizawa Y et al.

Surg Endosc. 2017 Oct 26. doi: 10.1007/s00464-017-5827-z. [Epub ahead of print]

[背景]

- ・大腸癌による死亡は日本の癌関連死の中でも2番目に多く、年間135000人が大腸癌と診断され、年間50000人が大腸癌によって死亡している。
- ・現在日本には75歳以上の高齢者が1755万人おり、それに伴い高齢者の大腸癌患者は日本でも増加の一途をたどっている。
- ・高齢者の術後合併症の一つにせん妄があり、ときに致命的となる。色々な原因がこれまで報告されてきたが、疼痛もその原因となりうる。
- ・近年大腸癌における手術で腹腔鏡による手術が主流となってきた。
- ・特に腹腔鏡の中でもポートを一つとする単孔式腹腔鏡手術は整容性に優れており、2008年から本邦でも導入されている。
- ・大阪大学では、Pain Visionを用いて単孔式腹腔鏡手術が従来の手術と比較して有意に術後の疼痛を軽減させることを報告した。
- ・後ろ向き研究である本研究では、高齢者大腸癌における術後せん妄に対する単孔式腹腔鏡手術の効果を検討した。

[方法]

- ・75歳以上の大腸癌患者134人を対象
- ・2009年から2015年まで大阪大学病院で行われた待機手術を対象とした
- ・術後せん妄の診断はconfusion assessment method (CAM) algorithmに基づき、2人の医師によって行われた。
- ・術式において、単孔式では2-3cmの切開を置き、マルチチャンネルポートを用いた。また従来の腹腔鏡手術では5ポートを用いて行なった。

[結果]

1. 患者背景

- ・年齢は 75-92 歳。男性 76 人、女性 58 人だった。
- ・単孔式と従来の腹腔鏡手術との比較では、年齢、性別、BMI、ASA、腫瘍部位、糖尿病、心疾患、脂質異常症の有無で差はなかったが、開腹手術既往および高血圧の有無では有意に単孔式群の方が多かった。

2. 単孔式と従来式の比較

- ・両群間を単変量解析で比較したところ、手術時間、出血量、術後食事開始期間、入院期間、再入院率、創感染、縫合不全、イレウス、リンパ節郭清個数などは差がなかったが、術後せん妄の有無で有意に単孔式の方が少なかった。

(13.8% vs. 30.0%, $p=0.0161$)

3. 高齢者総合的機能評価 (CGA) との関連

- ・134 人のうち、110 人で CGA を計算し低リスクおよび高リスクにわけて検討した。その結果、低リスク群ではせん妄の発生率は変わらなかったが、高リスク群では有意に単孔式でせん妄の発生率が低かった。

[考察]

- ・単孔式腹腔鏡手術を行うことにより、高齢者、特に CGA スコアが悪い患者における術後せん妄を防ぐことができる可能性がある。これは術後疼痛がせん妄の原因の一つとなっており、単孔式手術をすることにより疼痛を抑えることができるからである。そして特に CGA スコアが不良である患者ほどその影響を受けやすいと考えられる。